

# 第7回ならやま新蕎麦祭り (平成28年11月24日)

創立15周年記念  
28年度新蕎麦祭りレポート

11月24日第7回新蕎麦祭りが賑やかに開催された。心配された空模様もお昼頃は太陽がのぞくお祭り日和となる。今回は創立15周年、ならやまプロジェクト発足10周年の記念の冠行事ということで、過去最高の80人が参加される大盛会となった。



午前11時45分、鈴木会長のご挨拶で開会。続く展示パネルの説明はそこそこに切り上げ、お待ちせましたと、ならやまの新蕎麦が満を持して登場する。文字通りの「打ち立て、湯がき立て」の蕎麦に、「ふむふむ・・・旨いで」、「おいしいわよ」の声。蕎麦打ち冥利に尽きるひと時である。



「15周年記念に特別の企画を」との要請があって、クラブでは、蕎麦の特別献立、写真パネルの構想、クイズの賞品に想を練った。

とくに蕎麦メニューは女性陣が何度も試作し、やり直した末「ぶっかけ」「にしん蕎麦」「蕎麦雑炊」「ネギおやき」「蕎麦ぜんざい」の5品に絞り込む。この苦心の蕎麦アラカルト、幸い皆様にご好評を頂きほっとするやら嬉しいやら。

そばの味は蕎麦粉の良し悪しで決まるといふ。今年気候不順で収量は半減し心配されたが、関係者の努力で、蕎麦粉は薄緑がかつたいい仕上がりとなった。打つほどに香りが立つ出来栄を「ぶっかけ蕎麦」、でお楽しみいただけたらどうか。



写真展示パネル「ならやま景観活動と蕎麦作り」は、10年間の景観整備の歴史と、その一環としての蕎麦クラブの活動を展示した。今昔の景観の移り変りの歴史を再発見し、意欲的に活動する往時の仲間の姿に感慨を覚えた方も多かったに違いない。



世に蕎麦打つ人は多いが、畑作りから蕎麦打ちまで一貫して実践できる幸せな例は少ない。ならやまに処を得て、会員のご理解とご協力のもと試行錯誤しながら集う蕎麦仲間28名、今後とも当会の活動に役立ちたいと心から願うものである。

(ならやま・そば文化クラブ 古川祐司 記)



収量当ての優勝は鈴木会長 賞品は田中さんの労作